

学びの風景(23)

2022. 8. 6(土)

”講習会”の何がすごいのか？

平成22年度の夏期講習会も終わりました。

参加された生徒は確実に力をつけて2学期に向けて猛ダッシュを始めました。

講習会を受講すると、確実に力がつきます。

なぜなのかを分析してみました。

(1) 解けないが一気に解けるになる。

講習会というのは、**毎日**学習を積み上げます。

ある問題が解けなかったとき、その解法を学習し、解けるようにする、というのはいつもの通りですが、講習会で決定的に異なるのは、次の日に前の日に解けなかった問題をもう一度解いてみる、という点です。

普通は解けます。前の日に解いた問題ですから。

しかし、解けないこともあります。複雑で高度な問題の場合です。

こういう問題は、1回学習して解けるようになったからといって、次の日にも解けるという保証はありません。だから、次に日のチェックは欠かせないのです。

チェックし、解けない時は、さらに覚え直します。覚え方、つまり解法の流れの押さえ方が十分ではなかったのもう一度解法プロセスを確認します。確認して、答案を紙に書きながら、プロセスを覚えます。ここが超重要な点です。分かることと書けることは全く別の能力です。

分かっているけど答案として書けない問題などいくらでもあります。

高度な問題は、答案を作りながら解法のプロセスを覚えることで、だんだんと解けるようになります。その過程で、その問題を解くのに必要な基礎知識もしっかりとしてきます。

ここが応用力を手に入れる上でとても大切なポイントになります。

(2) 単元全体が俯瞰できるようになる

講習会ではあるまとまった内容を短期間のうちに一気に解きます。

そうすると、単元全体が俯瞰できるようになります。

単元全体が俯瞰できるようになるということは、

例えば、1次関数の文章題にはどんなタイプの問題があるのかを分かるようになるということです。

これは応用力にとって、決定的に重要な情報です。

つまり、1次関数の文章題では、どんな問題を解けるようにしておけばいいのかが分かるということなのです。

学習の目標という到達点をはっきりとしているので、そこへ至る学習の戦略も的確に立てることが出来ます。

「何をどのように学習するか」という学習方法がぶれないということです。
目標に向かって一直線に学習できます。その学習がトップ高校合格へと直結します。

(3) 受験のプロから指導を受けること

その單元では、例えば、1次関数の文章題では…

何が解けるようになればいいかがわかった。

学習によって、なにが解けて、なにがまだ解けないかがわかった。

だから、今、なにを勉強すればいいのかがわかった。

わかったのだが、さて…

具体的に、どんな問題集を使って、どの問題を選んで、どんな順序で学習したらいいか。それらの教材をどのようにして学習していったらいいのか。

ここがわからない！

やらなければならないことは分かっているが、できない。

こんなときのために、受験のプロというのがおります。

勉強の具体的な方法は、受験のプロから指導を受けるに限ります。

講習会参加者の多くがその後も数専ゼミに残って指導を受ける理由がここにあります。

では、受験のプロ数専ゼミではどのように指導するのか。

これについては、次回に実例を入れて詳しく紹介します。

1次関数の文章題を具体例として、

■「学習計画書」をもとに

■「教材データベース」を使って

■「学力化学習法」で学習する

という数専ゼミの受験指導をご紹介します。

受験勉強を科学する数専ゼミの数学教室です。

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp